

Dr. オリゼ®スタークル®箱粒剤

特長：

- 病害抵抗性誘導で耐性菌リスクの小さいプロベナゾールと幅広い殺虫活性を示すジノテフランを混合した箱処理剤です。
- 処理時期が緑化期～移植当日と幅広く、栽培計画に合わせた処理が可能です。
- 農林水産省「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」に掲載された農薬です。

有効成分	ジノテフラン（化管法第1種）・・・2.0% プロベナゾール（化管法第1種）・・・25.0%	包装	1kg×12 3kg×6 10kg×1（JA）
性状	類白色細粒	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

*普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害虫及び使用方法】

2016年07月06日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 ウカ類 イネズグウムシ イネトオモシ ツマグロヨコバイ コメテユ イネカマシ もみ枯細菌病 白葉枯病	育苗箱 (30×60×3cm) 使用土壌 約5L) 1箱当り 50g	緑化期～ 移植当日	1回	育苗箱の 苗の上から均一に 散布する。	4回以内 (育苗箱への処理 及び側条施用は 合計1回以内、 本田での散布、 空中散布、 無人機散布は 合計3回以内)	2回以内 (移植時までの処理 は1回以内)
	フタヒレコヤカ		移植3日前 ～移植当日				

使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきることを。
- (2) 育苗箱の苗の上から所定量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤は払い落とした後、十分灌水すること。
- (3) 稲苗の葉がぬれていると、薬剤が付着して葉害を生じる場合もあるので、散布直前の灌水はさけること。
- (4) 軟弱徒長苗、むれ苗などでは葉害を生じるおそれがあるので、必ず健苗に使用すること。
- (5) 処理苗移植の本田の整地が不均整な場合は葉害が生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後田面が露出したりしないように注意すること。
- (6) 処理苗を本田に移植したのちは、そのまま湛水状態（湛水深3～5cm）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
- (7) 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合には使用をさけること。
- (8) 移植後、低温が続く、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさけること。
- (9) 本剤の処理により、軽度の初期生育遅延や葉の黄化を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持すること。
- (10) 容器・空袋は圃場などに放置せず、適切に処理すること。

- (11) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (3) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (4) かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけること。
- (5) 夏期高温時の使用をさけること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。
- (2) 移植後は河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
- (3) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。